

たすけあい名古屋

通信第145号

介護保険料

朝日新聞社のアンケート調査による、平成30年度からの介護保険料の見込みが、3月22日朝刊の1面トップ記事になっていました。

4月から65歳以上の高齢者が支払う介護保険料は、次のようになる見込みです。

自治体	～29年度	30年度～	
全国平均	5,514円	未算出	
名古屋市平均	5,894円	6,391円	+8.4%
最高自治体	6,758円	7,927円	+17.3%

介護保険料は保険者（各市町村）毎に、人口構成、要介護者比率等により異なります。高齢者比率の高い地域、要介護者の多い地域では、介護保険料が平均を上回るようになります。

介護保険料は個々の方の所得に応じた負担となるように15段階に区分されており、第1段階では基準額の0.4倍、15段階では基準額の2.5倍です。高所得の方は約16,000円（年間約19万円）の負担となるわけです。加えて税金からの負担も加わり介護保険費用に充てられています。

しかしながら、団塊世代が75歳の後期高齢者となる2025年には更なるアップが必至です。要介護者・認知症者の増加、65歳未満の収入を得る現役世代の減少と、介護保険制度は今までの延長線で維持していくことは非常に厳しい状況になっています。

3月21日に名古屋市立大学で「死に方の質」をテーマに市民公開講座がありました。在宅医療、訪問看護、葬祭それぞれに携わる方でのパネルトーク、市民との対話ですが、



市民公開講座にて

この中で「看取り」ということが大きな課題として浮かび上がってきていました。社会保障制度の改革の中で、特に介護保険制度を活用し、地域包括ケアシステムの定着、在宅医療・介護連携への転換をおこなっていかねればこれからの地域社会の維持が出来なくなります。

とはいえ、訪問医療を積極的に展開する医師の数はまだまだ少なく、医療・介護連携での社会保障制度に向け、個々人および地域社会の人々が意識をもって考えていかなければならないことです。

（代表理事 西川 達夫）

「なごやかモデル」と「たすけあい名古屋」

名古屋市立大学は、コミュニティヘルスケア教育研究（CHC）センターを鳴子団地の中に置き、医療系学生が地域に出て、日ごろ余り接する機会のない高齢の方たちに直接お会いすることにより、将来の医療の在り方を考えることの出来る場でした。残念ながら3月に文科省の助成が完了し、これまでのなごやかモデルとしての活動には終止符を打つことになりました。

たすけあい名古屋は、なごやかモデルに加え薬学部学生の地域包括ケアシステム体験学習の一環として、たくさんの学生達の実習を受け入れてきました。なごやかモデル完了と同時に体験学習のあり方も変わってくると思われませんが、今後とも若い学生達の受け入れには前向きに協力していく考えです。

学生達の最終報告要約は次の通りです。

（代表理事 西川 達夫）



デイサービス鳴子

施設紹介

介護サービス 通所介護
対象者 要介護または要支援認定を受けた方
利用定員 14名
営業日・時間 月～土曜日
9：30～16：40

実習目的

介護現場の実際を体験することで、薬剤師として活躍できる点を考える。

薬剤管理

施設職員は、ご利用者のバイタルや薬の情報についてご家族、ケアマネジャーなどと綿密に連絡をし、その内容を連絡帳に記載している。

薬剤師に求められること

ご利用者が複数の医療機関を受診している場合が多いため、薬を一元的に管理する必要がある。そのため「かかりつけ薬剤師」の普及と推進が望ましいと考えられた。

まとめ

患者や家族だけではなく、介護施設にも薬剤情報を提供し、互いに情報を共有することが望ましい。

鳴子のおひさま

施設紹介

介護サービス 小規模多機能型居宅介護
対象者 要介護度1～5
利用定員 通い15名、泊り9名

実習目的

介護施設において介護職員がどのような介護を行っているのかを学ぶ。
介護施設においてどのような薬剤管理が実施されているのかを知る。

学んだこと

通い、泊まり、訪問の3つのサービスを1つの施設で行うことによって、ご利用者が馴染みのある環境で過ごせるようにしている。

薬剤師に求められること

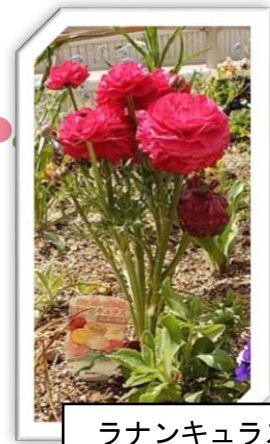
介護施設での薬剤管理に薬剤師も一緒に関わり、患者の飲み忘れや飲み間違いを防ぐ。（お薬カレンダーの作成、一包化調剤、介護者に対して服薬のタイミングのアドバイス）

地域の人々の健康維持、介護予防、疾患の重症化防止をサポートするために、医療介護従事者とコミュニケーションをとれる機会をつくり積極的に参加する。

障がい者総合支援だより

80棟中庭の花壇がステキです。

鳴子のおひさま玄関横の通路を遠目で見渡すと、額縁に入った一枚の絵のような風景が映ります。生活介護かるむのご利用者がスタッフやボランティアさんと一緒に手入れしている花壇が見ごろを迎えました。赤や黄色のランンキュラス、白やピンクのデージー、水色の忘れな草。他にも色とりどりの草花が次々と咲き始めています。例年以上に寒さの厳しかった冬を乗り越えて迎えた春。暖かな陽ざしに微笑むように咲く愛らしい花のハーモニーを地域の皆様にも楽しんでいただけたら幸いです。（管理者 村田 裕子）



ランンキュラス



80棟中庭花壇



鳴子のおひさまだより (小規模多機能)

3月に入ってから寒い日が続き、ご利用者にとって外出するのは、少し負担なのではと心配していましたが、梅見の当日は快晴で、春の暖かさを感じられる程でした。

天白区の農業センターは、たくさんの人で賑わっていましたが、人混みにも気にされる事なく満開のしだれ梅を堪能されました。

ひな祭りでは、ご利用者におこし餅作りを手伝っていただき、懐かしむ方、初めて作る方それぞれでしたが、仕上がりはどれも完璧で、皆さまは「美味しいね」「こんな味だったね」と、召し上がられました。（管理者 與儀 良博）



しだれ梅

介護みどりだより (訪問介護)

3月15日のヘルパー会議の講師は、介護みどりの伊藤英子（ヘルパー研修担当）で、今回のテーマは「認知症について」でした。

この頃毎日1回は認知症という言葉を目にします。認知症を持つご本人とご家族の気持ちは「合わせ鏡」のように同じ感情になることが多々あるということです。

私の母・義母も認知症です。家族だとつきつくとってしまいがちですが、穏やかに接すれば相手も穏やかに過ごせるようです。介護みどりは認知症の方が穏やかに生活して頂けるような支援をしていきます。



ヘルパー会議

（サービス提供責任者 山田 夕子）

デイサービス鳴子だより

急に暖かくなりました。インフルエンザが最後の追い込みをかける季節です。

デイサービス鳴子でも風邪をひかれて休まれる方がちらほら。温度差も激しく、朝方はまだまだ冷える日が多いですので、しっかりと暖かい環境でお休みください。

3月のデイサービス鳴子では大演奏会が開催されました！サクスの演奏、職員の余

興、そしてオカリナデュオの演奏。素晴らしい音色が建物いっぱいに広がり、とても心地よい演奏会となりました。「次はチケット販売をしよう！テレビを呼ぼう！」なんて冗談も出るほど大盛り上がりの演奏会はこれからも続けてまいりたいと思います。昔やっていた楽器を演奏したいといったご希望がありましたら、ぜひお気軽にお申し付けください。一緒に音楽を楽しみましょう♪

さて、今月は花見を実施いたします！今年の桜は、例年よりも早咲きとなりました。素晴らしい春と一緒に味わいましょう。

(管理者 青木 一祥)



♪ 演奏会 ♪

天白福祉会館だより

認知症予防につながる日常生活の暮らし方を6ヶ月で学ぶ「認知症予防教室」の3クラス30名の方が、卒業されましたのでご紹介します。

みなさんととても仲良しで、いつもおしゃべりと笑いがいっぱいでした。最初は緊張した表情も、回を重ねるたびに笑顔が増えていきました。

頭を使う体操では「間違っても笑っちゃえー！」と、それぞれの個性豊かな仲間がお互いに刺激し合って、いつもあっという間に時間が過ぎました。

修了式では「教室を休んだらもったいないぐらい楽しかった。」「ランチのできる友達ができた。」「みんなに勇気もらって気持ちが前向きになった。」などの感想と、「趣味」、「旅行」などのこれからの抱負を語られました。

そしてこれからは「年だから・・・できない」ではなく、「まだまだ元気に楽しくいこう」をモットーに！それをみんなの合言葉に！

(天白福祉会館 小川 真弓)

認知症予防教室



ホームページをご覧ください

たすけあい名古屋

検索



特定非営利活動法人 (認定NPO法人) たすけあい名古屋

代表理事 西川 達夫

〒458-0041 名古屋市緑区鳴子町四丁目13番地 愛知県住宅供給公社鳴子第1住宅

TEL 052-899-0833 FAX 052-899-0800

Eメールアドレス : info@tasukeainagoya.com